

加齢に伴う口元の見た目の変化

加齢というのは、誰にとっても避けられない体の変化であり、口元も年齢を重ねるうちに変化していきます。加齢に伴うお口周りの変化を最小限にとどめるには、適切な歯科治療と定期的なプロケアで歯を長持ちさせることが大切です。例えば、黄ばんでしまった歯に関しては、ホワイトニングやセラミック治療で若々しさを取り戻すことが可能です。歯を失ったら早期に治療を行うことで機能を取り戻し、筋肉が衰えないようにすることが大事です。

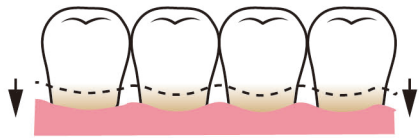
口元の状態で見た目の若々しさもかなり違ってきますので、お口のケアにもしっかりと取り組みましょう。



加齢で起こりやすい口元の見た目の変化

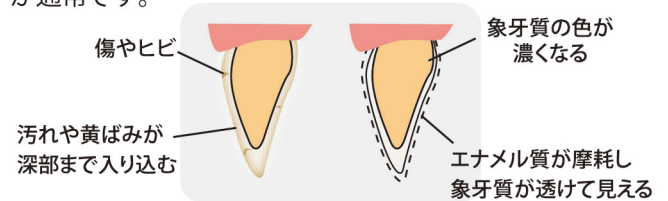
1 歯茎が下がる

歯茎というのは、特に健康上に問題がなくても年齢と共に下がっていく傾向があります。もし歯周病にかかっている場合には、その下がり方はもっと顕著に現れます。



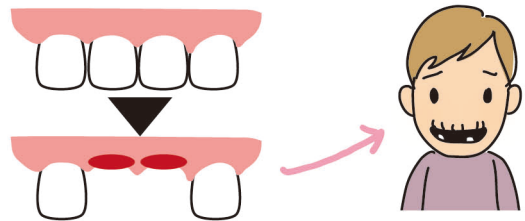
2 歯が黄ばんでくる

歯の色は年齢を重ねるうちにだんだんと黄ばんでくるのが通常です。



3 口元がシワっぽくなる

皮膚にシワが現れてくるように、口元もシワっぽくなってきます。特に歯を失った場合、内部からの張りがなくなってしまうのでより顕著となります。



4 ほうれい線が出る、頬がたるむ

あまり食事の際に噛まない、歯を抜けたまま放置している、など口の周囲の筋肉をあまり使わない場合には、頬がたるみ、ほうれい線が現れやすくなります。



治療した日の注意点

治療した内容によってはその後の食事や行動について、気をつけなければならないことがあります。思わぬトラブルを避けるために、伝えられた注意事項は守りましょう。

■ 仮蓋や仮の歯が入った時

歯の根の治療後の仮の蓋、被せ物が入るまでの仮歯には強度はなく、外れてしまうこともあるため、この部分での食事は避けるようにしましょう。

■ 詰め物・被せ物を入れた後

被せ物などをくっつけるセメントがしっかり固まるまで飲食は控えましょう。



■ 麻酔をした後

麻酔が切れるまでは感覚がないので、唇やほっぺを噛まないように、なるべく食事は摂らないようにしましょう。特に小さなお子さんの場合は注意してください。



■ 抜歯後など外科処置後

激しい運動や飲酒は避け、施術した場所ではしばらくものは噛まないようにしましょう。その他、伝えられた注意事項を守りましょう。

